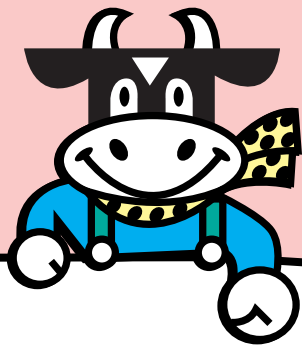




ワンポイント・アドバイス



異物による創傷性疾患

牛はほとんど咀嚼する（噛む）ことなく飼料を飲みこむため飼料以外にも色々なものが体内に取り込まれやすい動物です。また、飲み込んだ物質は第一胃へ入るものもありますが第二胃へも入りやすい構造をしています（写真1）。さらに第二胃へ入ると写真2のように粘膜面が蜂の

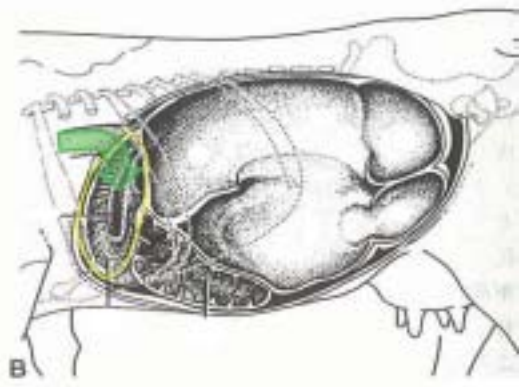


写真1

巣状で異物が引っかかりやすく、第二胃自体の収縮も膨大な第一胃の動きに影響を与えるほど強く急激であるため粘膜壁に刺さりやすいのです。

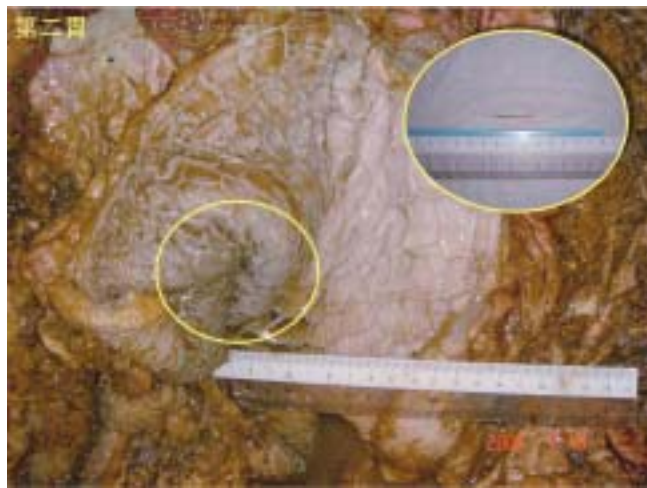


写真2

異物といってもサイレージを覆つのに用いられているタイヤのワイヤー、電気牧柵のフェンシングワイヤー、くぎ、ねじなど種類は様々です。その他、金物ではなくても尖ったプラスチックなども立派な異物といえます。これらが、ちよつとした拍子に第二胃壁に刺さり、腹膜炎や横隔膜炎などを引き起こすのです。



写真3

写真3は去年疑わしい牛でレントゲン写真を撮ったものです。見づらいたですが丸で囲ったのが異物です。牛舎環境に問題なく飼料に異物が混入しているようには思えなくても実際は写真のとおりです。これらの疾患の発生率は7〜21%の範囲との報告もありました。決して少なくありません。症状は色々ありますが突然食欲不振、乳量低下などがみられます。

重症になると顎（下顎）、胸垂、乳房などに浮腫ができます。治療としては抗生剤を投与して対症療法を行います。根治は望めません。そのため予防が何よりも重要です。予防にはよく知られている写真4の棒状磁石（パーネット）を投与するのが一般的です。写真以外にも吸着力の違いで数種類あるようすです（形は大体同じで中の磁石の構造を少し変えているようすが詳しいことは調べきれませんでした）。『うちはパーネット投与しているから大丈夫！』と考えている人が多いように感じますがパーネットは磁石に反応しないものは吸着しないので万能ではありません。写真2の右上はパーネットを投与していた牛の第二胃から抽出された長さ約30cmの針金様の物質です。こ

れが直接の原因かわかりませんがこの牛は重度の腹膜炎で予後不良となりました。これを見ると治療よりも予防、予防の中でもできる限り牛体内に入らないような環境にすることが重要であると改めて思えます。



写真4

また『パーネット1本より2本、さらに3本！』という考えになりそうですが、本数を増やしたからといって磁石の吸着力も増えるということはないそうです。異物が原因の創傷性疾患はどの泌乳ステージでも起こりえるので泌乳最盛期におきたとしたら乳量低下や治療による出荷制限など経済的損失は計り知れませんが、また根治は望めないことを考えると牛1頭に1本900円のパーネットを投与することでの予防効果が大きいなら安いのではないのでしょうか（50%くらい予防できる^①）。投与したが、してないか忘れないよう^②初回受精と同時に投与^③など自分なりの目安を作っておく^④いいと思います。